



串原中学校で行われた「中学生、市長と語る会」の様子

中学生が考え提案

「わたしたちが願う恵那のまちづくり」

串原中学校の体育館を会場として「中学生、市長と語る会」が、10月14日に開催されました。第4回目の今回のテーマは、「わたしたちの願う恵那のまちづくり」。市内8中学校から、それぞれ選出された生徒の代表16人と、市長、市議会議長、教育長、開催校の串原中学校長、市総合計画推進市民委員会の会長、司会の市役所企画課長の22人が参加しました。

生徒からは、人口減少や少子高齢化の課題に対して、公共交通の利便性の向上、働く場所の確保、産科医療の確立などの提案を発表。また、ごみ問題や中学生のボランティア参加、高齢者に住みやすいまちなどの提案もありました。ここでは、当日の主な内容を紹介します。

問い合わせ 企画課（内線313）

公共交通を利用しやすい足に

「どこに行くのも不便、バスの本数を増やしたり、明知鉄道で串原まで延ばしたりしてほしい（串原中）」

市長 明知鉄道ではデュアル・モード・ビークルの試験を計画中。これが実現すれば、恵那駅から明知鉄道に乗って、明智で道路に乗り換えて串原まで行くことができます。

「お年寄りが利用しやすい日中の時間帯のバスを、フリー乗降にする」と使いやすい足になる（恵那北中）

「恵那駅から各地域までのバス網の整備が必要」（恵那東中）

安全な道路にしてほしい

市長 スクールバスに、一般の人と一緒に乗っていたらバス体系にしたい。何とか地域の足を、しっかりと作りたいというのが、わたしの願いでもあります。

「安心して暮らせるように、ガードレールや街灯を設置してほしい」（上矢作中）

「設置してある街灯を小まめに修繕したり、明るいものに替えたりしてほしい」（山岡中）

市長 街灯があることで安全が保てることもあるので、設置については全体を見て考えていきたい。

働く場があれば住み続けられる

「これからここに住み続けるには、働く場が必要です」（串原中）

市長 武並町にある工業団地を増設して、企業に来ていただくと思っっています。また市内の企業にも投資していただき、就職できるように、市では優遇条例を作っています。ぜひ就職できる場所を、作っていききたいと思っています。

少子化で市の活気がなくなる

「安心して子が産める施設や環境が必要。ぜひ市内に産婦人科を設置してほしい」（明智中）

市長 医師不足なので、すぐに実現は難しい。しかし少子化対策の1つとして、何とか恵那に産婦人科を設置するように、一生懸命に取り組んでいきたい。

ごみのない美しいまちに

「クリーンウオーケの日を決め、市内の各学校で通学路の清掃活動を行う」（上矢作中）

「中学生によるボランティア組織を作り、定期的な植栽や清掃活動を実施する」（恵那東中）

「エコ宣言や日本一美しいまち宣言をして、各地域でごみのないまちづくりを進める」（恵那西中）

市長 恵那に来て「汚いな」と言わ

れたら一番つらい。皆さんで心掛けて、きれいなまちにしてほしい。

「ごみのリサイクル活動を市民総ぐるみで行うことで、ごみの量を減らし経費も削減できる」（明智中）

市長 日曜リサイクル広場を、ボランティアの皆さんによって行っていたら、1回に約10本のリサイクルができる。このような活動を、ぜひ皆さんに知っていただきたい。

高齢者に住みやすいまち

「明知鉄道の駅を利用した高齢者のコミュニティ施設を設置して、そこを拠点に活動する」（岩邑中）

市長 駅周辺のまちづくりを考えると、明知鉄道の活性化、ひいては地域の活性化にもつながります。

「交通安全教室を高齢者と中学生と一緒に、将来にわたって悲しい事故を減らしたい」（恵那東中）

市長 高齢者の視点で考える交通安全、ぜひ実施してほしいです。

いい所を全国に広める

「いい所を探したり作ったりして、自然と歴史ある恵那を、全国にアピールする」（恵那西中）

市長 自分たちの地域やまちを知り、それに誇りを持てる。そういうまちに、していかなければならないと思います。



デュアル・モード・ビークル=バスに鉄の車輪が付いていて、レールの上も道路も走ることができる車両。